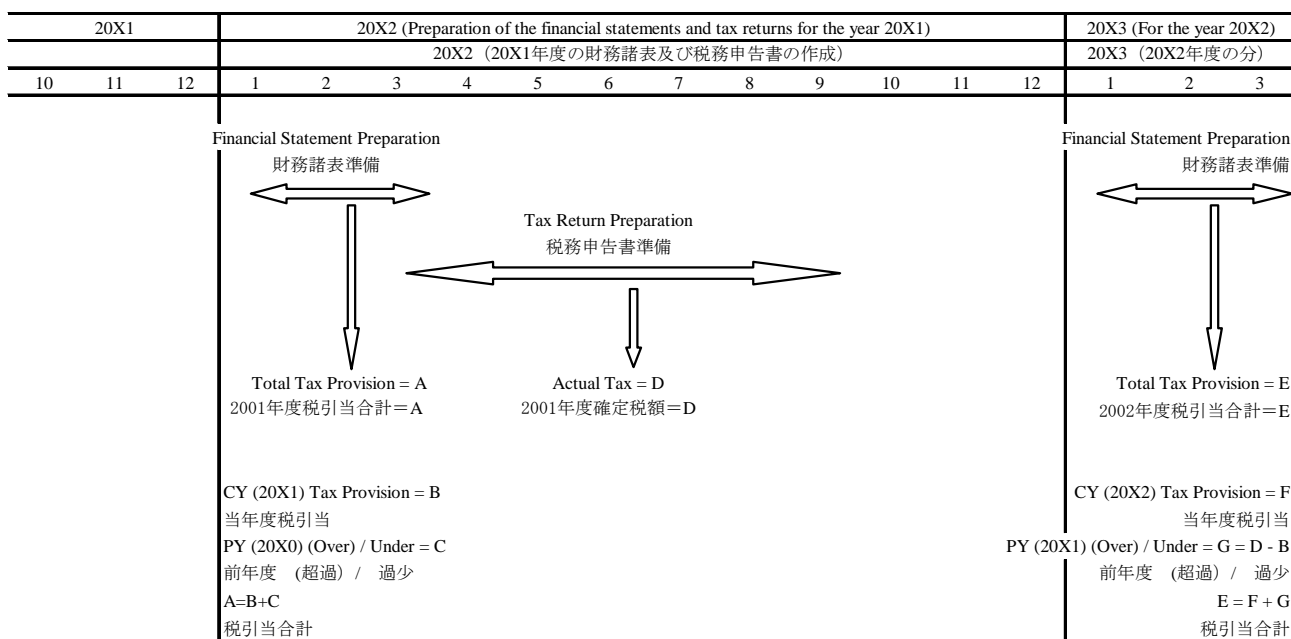


税引当 (Tax Provision)

税引当 (Tax Provision) とは、財務諸表上の当年度の法人税額及び次年度以降の繰延税金を計算し、税関連の決算仕訳を作成する作業のことを言う。確定していない税額を、財務諸表上計上することから、税未払処理 (Tax Accrual) と言うこともあるが、正確な言い方ではない。税引当の主要な目的は、財務諸表上の税引後利益計算のための法人税額と繰延税金資産あるいは負債など貸借対照表項目が会計年度に適正に見積もられて計上されることである。ここでいう「適正」とは、税務申告書上の当年度の申告税額と税引当時の見積もり税額との差異が、大きくかけ離れることなく妥当性があるという意味である。つまり、申告書作成提出の時期が延長申請によって、半年程度遅れるため、税額が確定できないというところから、この引当という作業が必要となってくるのである。よって、申告書作成のための WP ではなく、財務諸表作成のための WP となる。もちろん、確定税額を財務諸表に反映させるべく、申告書自体を同時に作成することも可能であるが、企業の税務部門あるいは会計事務所等申告書作成代行業者に多大な業務負担をかけることになるので、十分注意する。また、監査や検証を会計事務所等に依頼している企業の場合は、税引当を企業側で準備し、監査や検証の対象として、監査人に提出する必要がある。

下表では概略的に財務諸表と税務申告書作成時期のずれを示すと共に、当年度分税引当額がどのように計算されるかについて、その概略内訳と共に示している。



暦年を課税年度として採用している企業が、20X1年度及び20X2年度の税引当額を計算する際の、スケジュールが示されている。20X1年が終了し、20X2年に入ると同時に、財務諸表作成準備となり、その時期が税引当額の作業時期となる。この時期には、20X1年度の純利益と税務上加減算項目を計算するためのデータが既にあるため、20X1年度の税引当額 B を求めることができる。しかし、20X1年中にはその前年度 20X0年度の確定税額と 20X0年度の税引当との差額 (Over/Under) が発生しているはずで、その超過または過少額 C を加えた金額が 20X1年度の当年度総引当額 (A=B+C) となる。総引当額とは、最終決算時に費用計上する税額で、前年度に超過払いの税額がある場合は、計算された当年度税額より少ない額の費用計上となり、過少払いの税額がある場合は、当年度税額より多い費用計上となる。

20X2年度も同じように、総税引当額 E は 20X2年度の当年度引当額 F と前年度 20X1年度の超過/過少額 G を足した金額、即ち E=F+G となる。この超過/過少額 G は、20X2年中に確定する 20X1年度確定税額 D と 20X1年度当年度税引当額 B との差額となる。